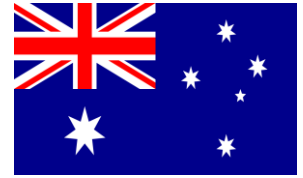


Southern Cross



The Japanese School in Perth
パース日本人学校



2022 No. 11

1月31日発行

Web-site www.japaneseschool.wa.edu.au

e-mail: toiawase@jssp.wa.edu.au

「自己肯定感・自己有用感」

校長 中丸俊晴

先日の全校集会で自己肯定感と自己有用感について話をしました。

今回の全校集会は、二年生の発表でしたが、その生活科の発表の中で、お店見学のインタビュー報告がありました。

「お店の人が、たくさんのお客さんがきてくれているのがうれしいと、笑顔で話していました。その笑顔を見て私もうれしくなりました。」

「たくさんのお客さんがありがとうと言ってくれることが、この仕事をしていて良かったことです。その話をきいて、素敵だなと思いました。」

このだれかに必要とされているという満足感を自己有用感といいます。お店見学で、この自己有用感の大切さを感じたことと思います。

一方、自分の事すべてを「ありのまま」受け入れ、尊重する感覚を自己肯定感といいます。

先日、中学生の道徳の「どうせ無理」という言葉に負けないという植松努さんの話を資料にした授業を参観しました。

人の可能性をうばう言葉である「どうせ無理」をなくし、夢をあきらめないことの大切さを伝える活動を行っているという話です。

「やっても無駄だ、どうせ無理だ」という否定的な言葉や考え方をやめ、自分を受け入れ、「だったらこうしてみよう」と自分を信じ、尊重し、頑張ることが、自己肯定感を高めていきます。「どうせ無理」をこの世の中からなくしていこうという植松さんの実践話には、とても説得力がありました。

学校での日々の活動の中には、この自己肯定感と自己有用感どちらも大切です。自分を信じ、友達を助け、友達から頼りにされ、そんな学校生活を残りの四学期で取り組んでいきたいと思えます。